



セッションV-4 地域

2月27日(日) 9:30~10:30

e スポーツで広がる世界

○大前博司¹⁾, 中村公紀²⁾, 加藤貴弘³⁾, 重金晋⁴⁾

1) 徳島大学病院 リハビリテーション部門, 2) 博愛記念病院 リハビリテーション部, 3) 徳島県地方創生局

4) 徳島情報技術事業団エティ, 5) 一般社団法人 徳島パラ e スポーツクラブ

Keyword: (e スポーツ), 社会参加, 対人関係

【はじめに】

2019年より、徳島県で発達障がい者、精神障がい者を対象としたeスポーツクラブが設立された。eスポーツとは Electronic Sports の略語であり、家庭用ゲーム機やパソコンを使用し様々な対戦を行う次世代スポーツ競技である。一方で ICD-11 では正式にゲーム障害が認められ、ゲームへの過剰な依存は健康被害をもたらすといった否定的な面が大きく取り上げられている。しかし eスポーツは適切な使用ができれば、障がい者が社会への接点を持つノーマライゼーションツールとして活用できる可能性を秘めている。今回、作業療法士がボランティアで関わるクラブにおいて、eスポーツを介して社会参加の幅が拡大した男児について報告する。本報告に際して対象者とご家族には趣旨、個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得た。

【事例】

10歳代男児。小学校で徐々に授業についていけなくなり、いじめを受けることがあり、その後に不登校となった。また両親の離婚なども重なり、自傷行為に至っていた。失敗には敏感な一面を持っているが、本クラブでは他者と協調して動くことができ、特にパソコン周辺機器などの興味のある事柄に対しては深い知識を持っている。ロコモ度テスト（ロコモ 25：13, 2step test : 1.49, 立ち上がりテスト：片脚 30）、アテネ不眠尺度 (AIS) 4, Quick Inventory of Depressive Symptomatology(QIDS-J) 2, 短縮版児童用不安尺度 2, Community integration questionnaire(CIQ) 家庭統合 1, 社会統合 5, 生産性 2, 目標スキルの児童自己評定尺度（仲間への入り方 3.125, 優しい言葉かけ 3.625, 相手を思いやる 3.769, 上手な頼み方 3, あたたかい断り方 3.5）、生活行為聞き取りシート：「ゲームの大会に出たい」、実行度 7 満足度 3。

【介入経過】

オンライン活動では毎週木曜日に 10 分程度のストレッチや体操指導を行い、その他の時間は参加者同士または支援者と意思疎通を図りながら各自が eスポーツに取り組んでいる。本事例も他の参加者と eスポーツに取り組んだり、興味がある事柄についてインターネットで調べるなどして過ごしている。COVID-19 によりオンライン活動が困難となった時期にはオンライン活動として Zoom Cloud Meeting を用いて週 3 回の体操を実施した。体操にはアクティブ・フォー・オール拠点より許可を得て、アクティブ 5 (一般版) を利用しており、一度も休まずに参加し、保護者からも自宅で一緒に運動していると聴取できた。本クラブでは定期的な集まり以外の社会参加の側面として、不定期ではあるが、徳島県からボランティア依頼を受けており、年間を通じて eスポーツやプログラミングに関するボランティアにも参加し、イベント参加者を席へ誘導するなどの役割を担っている。

【結果】

ロコモ度テスト（ロコモ 25：8, 2step test : 1.36, 立ち上がりテスト：片脚 30）、AIS 1, QIDS-J 1, 短縮版児童用不安尺度 3, CIQ 家庭統合 2, 社会統合 5, 生産性 5, 目標スキルの児童自己評定尺度（仲間への入り方 4.125, 優しい言葉かけ 4.375, 相手を思いやる 3.615, 上手な頼み方 3.25, あたたかい断り方 3.5）生活行為聞き取りシート：「ゲームの大会に出たい」、実行度 6 満足度 7。

【考察】

障がいのある子どもを持つ親は生活基盤の安定や生活資金の確保などの親亡きとの、子の人生について不安を抱えているとされている。特に発達障がい者などでは、障害特性から対人関係の構築が難しく、十分な賃金が得られる仕事に就けないことも多いと考えられる。更に本事例においては過去にいじめを受け、不登校となり、同年代や先輩・後輩との対人交流技能を身につける場がフリースクールのみとなっていた。しかしクラブ活動や得意なことを活かすことができる様々なボランティアを経験し、同年代のみならず、高齢者や滞日外国人とも関わる機会があり、社会参加の機会が増加することで対人交流技能や自信の向上に繋がったと考えられる。また対人交流技能を養うことは、就労を含めた将来の社会的自立に繋がると考え、今後も継続して得意なものを活かした社会参加を支援していきたい。

